

トコブシ人工種苗放流試験

天真 正勝・宮本 孝則*・和田 隆史*

特定海域栽培漁業強化事業の一環として牟岐地区で人工種苗放流効果試験を行った。

方 法

牟岐地区でのトコブシ漁期は3月中旬から6月末であり、漁期終了後の7月初旬に同地区内複数箇所牟岐町水産資源栽培センターで生産されたトコブシ人工種苗の放流が行われている。平成10年も人工種苗放流約4,000個が小津島北端（通称：サデバのシラギ）で7月3日に実施されるので、事前調査は平成10年7月1日に、事後調査は次年漁期前の平成11年3月2日に行った。調査方法は10名の海士が30分間に同場所で素潜りによる採捕を行い、船上にてグリーンマークによる人工種苗由来の判定及びパンチカードによる殻長測定を行った。その後直ちに採捕貝は同場所へ再放流した。

結果及び考察

小津島北端（通称：サデバのシラギ）での試験操業結果は表1に示したように漁期終了後の平成10年7月1日には天然貝145個、放流貝15個、合計160個であり、放流貝の混獲率は9.38%であった。また、人工種苗放流後約8ヶ月の平成11年3月2日の結果は天然貝173個、放流貝5個、合計178個であり、放流貝の混獲率は2.81%であった。この休漁期間中に天然貝は119%と増加しているが、放流貝は33%と大きく減少している。そのため混獲率も約30%と低下している。これは、今回の放流が通常の操業水深より浅い所で行われ、移動が少なかったため、試験操業での採捕数が少なかったためと考えられる。

また、試験漁獲されたトコブシの殻長組成を図1に示した。平成10年7月1日分の天然貝のモードは58~60mmであり、放流貝の個数は少ないが60mm付近にみられる。平成11年3月2日分は52~54mmと60~62mmにモードがみられ、ほとんどが50~60mmである。また、20mm付近に出現する群は2.2%ほどであり、平成10年発生群と思われる。

今回の調査では第2回目の放流貝の再補が悪く、今後は放流水深の検討が必要と考えられる。

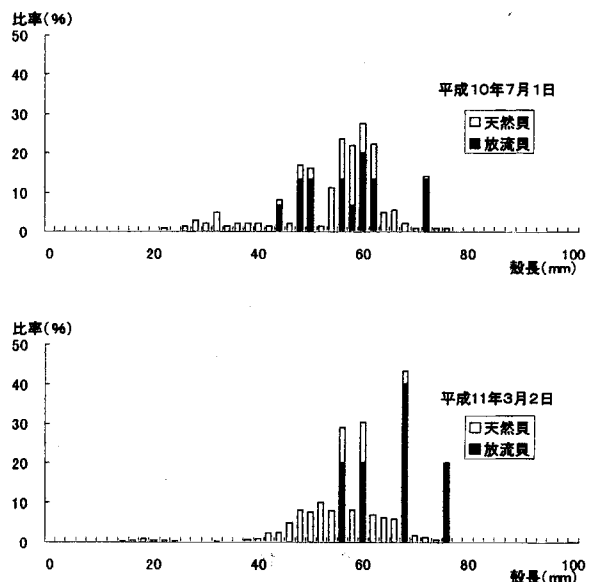


図1 平成10年度牟岐地区人工種苗放流地（通称サデバのシラギ）における試験操業時の採捕トコブシの殻長組成

表1 平成10年度牟岐地区人工種苗放流地（通称サデバのシラギ）における試験操業結果

調査日	平成10年7月1日	平成11年3月2日	個数比 (%)
天然貝 (個)	145	173	119.31
放流貝 (個)	15	5	33.33
合計 (個)	160	178	111.25
放流貝の混獲率 (%)	9.38	2.81	29.96

*：徳島県水産課